

2020年度山梨英和大学心理臨床センター
地域連携セミナー資料(2021年3月8日18:30～20:00)
無断使用・無断転載等厳禁

コロナ禍における 子どもや家族の支援

人見健太郎

(みとカウンセリングルームどんぐり)

0. 誰の気持ち？



ぬいぐるみ
あちこち
置いて



ママが
さみしく
ならないよう
おくんです

ひなが
なくて

あしたから
ひなはまた
ようちえん
ですから



あした
明日から
二学期です

ママさみしく
なっちゃうかも
しれないわね

ひなちゃんの日常

南ひろこ

やさしい
ひなちゃん



ギョッ

0. 誰の気持ち？

・まず子どもや家族について考えたり、対応する前に、広く援助職の人たちがどういう状態にあるのかを振り返るのが良いと思う。コロナに対する価値観は様々であり、その個々人が所属する組織も、それぞれによって「正しい」とされることが異なる。**立場によって見えるものが全く違うことは強調したい。**

・「新しい生活様式」＝「変化は破局」(ビオン)

0. 誰の気持ち？

- コロナは迫害対象の具現化か？

そうだとすれば、私たちの多くが容易に「妄想分裂ポジション」(自分の悪さを他の何かに投影し、それに怯える状態; クライン1946)に陥りやすくなっていると理解すべきかもしれない。

とりわけSNSでは顕著。

『鬼滅の刃』の流行とも関係があるかもしれない。「鬼」はコロナか？「絆」を求める？

「体験の様式」あるいは『こころのMode』（M.Klein）

＊絶えず変遷する2つの「ポジション」という捉え方

原始的-未成熟なモード

適応的-成熟したモード

妄想-分裂ポジション

Paranoid-Schizoid Position

- ❖ 最早期の発達段階に起源を持つ特有な対象関係と防衛機制，不安と情動のグループ
- ❖ 部分対象関係，分裂と投影同一化を中心とした原始的な防衛機制をもち，自己の攻撃性が顕著で迫害不安 persecutory anxiety が主な不安である

抑うつポジション

Depressive Position

- ❖ 生後4, 5ヶ月から体験し始める
- ❖ 全体対象関係，抑うつ不安 depressive anxiety, 洗練された心的メカニズム，象徴の活用が特徴である
- ❖ 抑うつ不安とは，喪失感，罪悪感，絶望感，哀惜，悔いといった心の痛みのことである

2つのModeに応じた 罪悪感の2種

□ 迫害的罪悪感

- 不安感や報復空想が優勢な罪悪感
- 自我にとって耐えがたく、対象に向かって排泄されるが、それが回帰してくるために自我を迫害的に圧倒してくるよう感じられる＝強いられた、押し付けられた、植え付けられた罪悪感として体験される

□ 抑うつ的罪悪感

- 抑うつポジションで体験される罪悪感
- より成熟した罪悪感で喪失感を伴って体験される

「 α 機能」と思考の発達 (Bion.W.R.)

◆ 「夢想 reverie」(「もの思い」ともいう) と 「 α 機能」の提

供. . . 排泄される苦痛な情緒体験. . . nameless dread...

➤ 赤ん坊の泣き声から意味を生成する母親の機能

○ α 機能を提供している 母子のコミュニケーション

➤ 投影同一化 と 取り入れ同一化

□ container/contained 関係 = 「心的容器」の提供

➤ 苦痛や不安を「考えることのできる」対象として共有していくプロセスが、やがて心的成長をもたらす


→ さまざまな情緒を抱えられる心の器(うつわ)が形成されていく

言葉化する「意義」

◆ ヒトはなぜ話をすると楽になるのか？

- ❖ 不安や不満は消化されるまで居座り続ける
- ❖ しかも、「分からない」「モヤモヤした」ままでは消化もされない
 - 思い出せない「あの曲？・・・」
 - 指のささくれ，歯間に引っかかった〇〇・・・
- ❖ 「言葉にする」という行為は、「分からなかった」モノに名前を与えて対象化を促す
- ❖ 対象化されたモノは，考えたり扱ったりできるモノとなり，「消化する」ことを可能にする
 - 「分かった」途端にスッキリする

「意味を生成する機能」(思考の能力)

- 『Container/Contained』という概念 (Bion,W)
 - ▶ 器/中身, 心的に包摂すること等の訳
 - ❖ この機能は生来的にヒトに備わったものだが, 他者(主に養育者)との関係性・互恵的な心的交流の中で育まれ, 強化される機能である
- 
- ❖ この機能が育まれなければ, 経験について「考える」ことができない=「内省」できない状態に陥る

体験してみよう！



体験してみよう！



おとなと子ども(のような人)による違い

□ 言語のもつ 2つの役割機能

- ① 「コミュニケーション」のための道具
 - 情報や意図, 考え, 気持ち等を伝えられる
- ② 「思考」の道具
 - 考える, 内省する, 自己統制すること等ができる

子どもの場合

□ 言語発達が不十分なため...

- ① 自分の内的体験等を十分に伝えられない
 - 行動や行為に情緒が漏れ出る
- ② 考える, 内省する, 自己統制すること等が十分にできない
 - 行動・行為に意味が与えられるまで反復される

0. 誰の気持ち？

・これらを踏まえると「分離」(separation)の視点から新型コロナウイルスがもたらしているであろう事態と、子どもやその家族の支援について考えていくことも有用かもしれない。

→一斉休校、その余波、制限される学校活動・・・

しかし、おそらく「影響は見える形で何かが出ているというより多くは潜在している」印象。

1. 子どもたちは今？

- 一斉休校明けすぐは集団が軽躁状態で、徐々に抑うつ的、あるいは破壊的な面が出てきている段階？【1割程度が顕在化？】

→これらを「自粛疲れ」というなら、そうだろう。

※親からの禁止を学校に持ち込んで、学校を恐れる子どもも出てきたような印象がある。

1. 子どもたちは今？

- 現場はみんな一生懸命頑張っているが、この1年起きたことは「そんなこと構ってられない」という象徴的な親の態度であり、見捨てられたような感覚ではないか？ 私たちの多くも政治家に対して「守ってはくれない」と思っているのではないか？ おそらく「万能的な親」への急速な脱錯覚というテーマがありそうだが？
- **弱者**はより影響を受けると思われる。

1. 子どもたちは今？

・学期、年度、卒業・・・様々な「節目」が存在する。それに向けての準備期間は非常に重要だが、担任が変わること、新しい学校に行くことは教育現場では「当然のこと」とか「おめでたいこと」だとされがち。そうした面はあるが、「お別れ」に伴う痛みは軽視されがちでもある。

→「うっせえわ」(Ado) ; 何はともあれ怒りは出ており、子どもたちの共感を得ている。

1. 子どもたちは今？

- コロナ問題の長期化で用心すべき反応。
不安や抑うつ
超然とした無関心
躁的な振る舞い
反社会的な行動
インターネットやゲーム、テレビへの没入
など

1. 子どもたちは今？

- 子どもたちに限らず・・・リスクのある人たち。

何らかのトラウマがある子ども(累積トラウマ)

→親が不安定な場合はより警戒すべき。

移行期にあった子ども(進学など大きなもの)

→高校1年生は・・・10年前の小学1年生。東日本大震災とコロナ問題。

1. 子どもたちは今？

- ここから少し高校での経験【一斉休校中】
1年生は悲劇的なまでに「所属感」が持てないと思われた。もはや中学生ではないが、高校生にもなれていない？相談すべき先生は誰？混乱。
- 3年生は進路への不安が高まっていた。
- 私たちも何を提示できるか悩んでおり、生徒の不安を必ずしも受け取れなかった。

1. 子どもたちは今？

- 当時、大人と生徒の「分断」という連想・・・
- 全く個人的な話だが・・・GWに大掃除をした私・・・20代の自分との決別、確かに「おじさん」になった私の自覚、残された時間への自覚・・・新型コロナはいつまで続くのだろうか？という心的痛みを伴った時間喪失への怒りや悲しみという現実との直面。

1. 子どもたちは今？

- 翌日の相談業務への影響。
- 多種多様な「空想」に基づく「新型コロナ論」・・・そして、大人の私からすると「視野狭窄」としか思えない、自分の関心事だけ話す若者に触れる苦痛。「進路の不安？それだけなの??」という、個人病理による反応。若者への羨望という普遍的テーマの気づき。

1. 子どもたちは今？

- 怒りの矛先を何かに向けるというありきたりな現象が我が身にも起きていたという事実。
- 社会的には、政府の対応への批判、感染者への差別、SNSによる「帰省女性」への炎上、新薬やワクチンへの万能的期待と失望、感染者数への一喜一憂と「分母」欠如の発表への怒り・・・などなど。

1. 子どもたちは今？

- 孤立した怒りは、学校制度に向かったりもした。例えば、保護者からの理不尽な「単位要求」などがあったが、「出席停止」という扱いで今年度は通過できた。学校行事を行うかどうかでも騒動が多々起きた(起きている)。
- 集団心理としてのTwitterでの同一化。そもそもケータイは「分離を否認する万能薬」という意味がある。新型コロナへの怯えの置き換え。

1. 子どもたちは今？

- そういえば・・・「5.11. 南海トラフ地震」というSNS都市伝説と、備蓄に走った大人たち。
- 「備えあれば憂いなし」だが？
- 新型コロナには無力だが、地震後の対応による自己肯定感の維持。しかし！「地震で死ぬかもしれない話」は出ないという否認が存在。

1. 子どもたちは今？

- そして、都市伝説を、政策を嘲笑する人たち。何をやっても反対意見が出てくる空しさ。

→正解のない問題に集団が関わっていた(いる)。

「敵」の存在が重要。

- ・若者は愚かなのか？これも「分断」。

1. 子どもたちは今？

- もしも「破壊的行動」に出ていたら？

→「いっそのこと全部ダメにしてしまえば、誰も良いものをもらえなくなるからやっちゃえ！」

→規則や制限から解放されて気持ちが軽くなっていると誤解されがちであった。小学生も「石投げ」などをして親に叱られていた。

1. 子どもたちは今？

- 破壊的行動をした生徒たちは、自分の与えた損傷を恐れ、一斉休校の後、登校することが難しくなるかもしれない。

→不登校を増加させる？元々そうであった生徒たちはますます学校から遠のく？

→「見ている」というメッセージを出す。世の中はアクセルなのかブレーキなのか、仲良くなのか距離を置くのかダブルバインド(二重拘束)に溢れた。

1. 子どもたちは今？

◎2021年3月に話を移す…。

- 秋ぐらいまでの何となく落ち着かない雰囲気。
女子高生の自殺率がおよそ7倍になったという報告とのリンク。不登校が増えているという多くの報告もこの頃から耳にした。SNS相談も凄かった様子。
- 予想が当たった部分と、予想しておきながら何もできなかったという思いが私にはある。

1. 子どもたちは今？

- 新型コロナウイルスは、「残酷」なまでに人との分かりやすい協力をあざ笑う。各々が自粛という形で協力しなくてはならない孤独な闘いである（繰り返すが、「親の不在」に相当する体験）。「自分はズルしても」と思いたくなる。そこが東日本大震災とは大きく異なる。
- 「軸」となる存在は「圧力鍋家族」以外に必要。

2. 「分離」の理屈（参照程度）

①究極の良い対象としての乳房の存在を認めることができたか？

⇒授乳されるミルクは、全ての「良いもの」の源泉。授乳のプロセスは？離乳という人生最初のお別れはどのようなものだったか？

安定しない授乳は、「悪い体験」を増やすので、極端なパーソナリティ形成に一役買ってしまおう。

2. 「分離」の理屈

※このことは、生存のためには外の誰かに依存しているということを受け入れられるかどうかというテーマに繋がる。

⇒援助を受け入れられるか？援助を受け入れることは、依存している自分を認めることになる。

そう考えられるようになるのは、弱さではなく強さが必要。

2. 「分離」の理屈

②両親の性交を究極の創造的営みとして認めることができたか？

⇒子どもは「赤ちゃんはどこから来るのか？」と
思っている。やがて、両親の何らかの関係性
によるものだと気づく。赤ちゃんはライバルか？
仲間か？

2. 「分離」の理屈

・両親の性交・・・交わり・・・が肯定的であれば、教師の授業という交わりも成果を上げる可能性が高い。何か創造的なことが生まれるという信念が強まる。⇒人生の真実を知る。

・生い立ちが悪いと、性交は具体的に侵入的なものとして体験される。

「あっちへ行け！」「こっちに来るな！」

2. 「分離」の理屈

③時間の不可避性を認めること、つまり究極的には死を認めること。

※宿題を忘れる、授業に関心がない・・・永遠に続く時間という錯覚の反映かも？

大人になって「勉強しておけばよかった」という声は、戻れない時間への嘆き。

3. 家族の支援

○実感としては、さほど心の専門家は役に立つ機会がなかった可能性がある。

・虐待やDVなどの増加→特定の相談機関の業務になりがちであった？学校が第一発見の場になることもあっただろうが、心の専門家に紹介されてくることはさほど多くなかったかもしれない(児童相談所などを除く)。

3. 家族の支援

- 眠れていますか？
 - お酒は増えていませんか？
 - 食欲はどうですか？
 - 読解能力は落ちていませんか？
 - 今、辛いことを話せていますか？
 - ユーモアのセンスはこれまで同様ですか？
- 私たちの「心的スペース」の確保！

4. まとめにかえて

- ゼロプロセス(トラウマによる心の麻痺)を起こさせない、もう起きているなら何が起きているのか聴く(内的にはアクティブに！)。
- コロナで実は得をした人、楽をした人もいる。その事実を多くの場合は、皆、隠したがる。「不謹慎だ！」と言われなかったためだろう。でも、多様性を認めないとおかしい話になる。

4. まとめにかえて

- 多くの子どもたちは、そこそこ健全に新しい生活を送っている。家族も同様である。しかし、東日本大震災などで私たちは学んだことがある。今、過剰適応している子どもや家族が、何年かしてから不適応状態に陥ることがあるという事実である。

- 全てがコロナではないにしても・・・。

4. まとめにかえて

- 大人も子どもも・・・「遊び」の感覚の重要性。
- 援助職にある人間は、「言いたい放題」言える機会があると良い。言ってから見えてくることがある。そのような場を作ることの意味は大きい。多種多様な考えがあっていい。相談業務ではこのことが避けがたい問題として立ち上がる。**安全に**「言いたい放題」を！

- ご清聴ありがとうございました！